

第27回

アメリカ合衆国の発展

監修・講師
中野耕太郎

学習のねらい

イギリスからの独立後、19世紀のアメリカ合衆国がどのようにして成長し、「大国」となっていったのかを学ぶ。東海岸の13州に始まるアメリカは、驚くべき勢いで西方へと膨張し、ついには太平洋沿岸にまで到達した。だが、それは無数の先住民を先祖伝来の土地から追い立て、奴隷制を南西部へと拡張するプロセスでもあった。そして、奴隷制をめぐる諸対立は、19世紀半ばには国家を二分する南北戦争の要因となった。戦後は、北部を中心に再統合がはかられ、アメリカは奴隷制を廃止し、豊富な地下資源と大量の移民労働力を基盤に世界有数の工業国へと変貌していった。

・ <西部開拓と先住民の苦悩>

・ 明白な天命 フロンティア 涙の道

・ <南北戦争 奴隷制と統合をめぐる戦い>

・ リンカン 綿花 奴隷解放宣言

・ <飛躍的な産業発展へ>

・ 大陸横断鉄道 工業化 金ぴか時代

■ ■ 西部開拓と先住民の苦悩 ■ ■

1783年にアメリカの独立が承認されたころ、その国土は大西洋岸の13州とイギリスから得たミシシッピ川以東の地域で成り立っていた。だが、その後、19世紀の半ばごろまでにアメリカは急激に膨張していく。1803年に広大なルイジアナをフランスから購入したのを手始めに、1819年にはスペインからフロリダを得、1845年にはテキサスを併合した。さらに、1840年代後半には、メキシコとの戦争を経て、カリフォルニアなど太平洋岸を含む地域を獲得した。この間、「明白な天命」を合言葉に、西部への移住は進み、**フロンティア**（辺境）の開発が進められた。だがそれは、先住民から生活の場を奪うことにつながった。特に1830年代、ジャクソン大統領時代の強制移住政策は、多くの先住民に長距離の移動を強い、結果的に数千名の命を奪う過酷なものとなった。

■ ■ 南北戦争 奴隷制と統合をめぐる戦い ■ ■

アメリカの西方への領土拡大は、新しい獲得地への奴隷制の導入をめぐる、南部と北部の間に強いあつれきを生んだ。この南北の対立は貿易政策をめぐるものでもあった。奴隷制の大農場で綿花等の輸出作物を生産した南部は自由貿易を求め、他方、製造業が成長し始めた北部の自由州は保護関税政策を主張した。1860年の大統領選挙で後者の立場を支持し、奴隷制拡大に反対のリンカンが当選すると、南部諸州は連邦を離脱し、これを容認できない北部との間で南北戦争が勃発した。開戦から1年半後、リンカンは奴隷解放宣言を出して南部を国際的に孤立させ、1865年には北部勝利のうちに終戦を迎えた。アメリカは再統合を果たしたが、戦死者60万人を数えた被害は近代史上まれにみるものだった。

■ ■ 飛躍的な産業発展へ ■ ■

南北戦争後のアメリカは、人類史上、他に例がないほどの驚異的な経済発展をとげた。天然資源にも恵まれたこの国では、鉄鋼業、石油精製業等が巨大な富を生み出し、20世紀への転換期には、世界一の工業生産額を誇るまでになった。また、1869年に完成した大陸横断鉄道など、交通、運輸の革新は、さらなる西部の農業開発を促しただけでなく、製品産地と市場・消費地とを緊密に結びつけることで巨大都市の形成を可能にもした。1900年までに人口100万人以上の都市が全米に3つも誕生したのである。だが、「金ぴか時代」と呼ばれた繁栄も、一皮むけば、弱肉強食の格差社会が姿をあらわした。多くの労働者や農民の生活は苦しく、移民や黒人への差別、貧困等の問題は放置されたままだった。

考えてみよう 調べてみよう

- かつて、ともに連合して「独立」を勝ち取ったはずの諸州が、なぜ2つに分かれて戦争をするに至ったのか。その利害と経緯について具体的に調べてみよう。
- 奴隷制が廃止されたあと、かつて奴隷であった黒人の暮らしはどのように変わっただろうか。また人種差別はすぐに解消されただろうか。南北戦争後の人種問題について調べてみよう。
- 19世紀後半の経済発展を支えたのは、多くの移民労働者であった。当時の移民は世界のどの地域からきた、どのような特色を持った人々だったか調べてみよう。